大阪公立大学
Osaka Metropolitan University
学術情報リポジトリ

中国語中国文学を学ぶ学生のためのコンピュータ・リテラシー覚え書き

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:
	公開日: 2009-08-25
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 清原, 文代
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://doi.org/10.24729/00011220

中国語中国文学を学ぶ学生のための
コンピュータ・リテラシー覚え書き

清　原　文　代

1．はじめに

国際文化専攻発足の1999年度から２年間情報処理演習を担当したが、当時はパソコンのキーボードを前にして身を固くし恐る恐るキーボードに触っている学生がまだ少なからず見られ、私自身の能力や知識の限界もあって如何にしてパソコンを操作するかということを教えるだけで精一杯であった。その後高校で情報科が必修になり、もはや単に操作方法を教えるだけの授業は不要になったと言ってよいであろう。今後必要なのはパソコンを使って如何に情報を収集し利用するかという真の意味でのコンピュータ・リテラシー教育である。ただ中国語中国文学分野に関して言えば、その前段階である如何にしてパソコンで中国語を扱うか、Web上にどのような情報があるかという知識がまだ完全に普及しているとは言えない状況である。2001年度以降情報処理演習を担当することはなくなったが、私のWebサイト<http://www.center.osaka-wu.ac.jp/~kiyohara/>や授業で学生のために情報を折にふれて紹介してきた。この機会に中国語中国文学を中心として学ぶ学部学生に必要な知識を覚え書きとしてまとめておきたいと思う。以下はあくまでもうこれ以上削ることはできないと思われる最低限のものであって、実際の学習や研究活動では更に詳しい知識が必要になる。

なお、中国語中国文学分野に限らず人文系大学生を対象にした情報リテラシー教育については、堀一成・山崎直樹「人文系大学生を対象とした情報リテラシー教育のための授業プラン―多言語デジタルテキスト、知的生産の方法から現代社会における基礎知識まで―」（『漢字文献情報処理研究』第５号、好文出版、2004年）があり、著者の一人である山崎氏が中国語学の研究者であるため、中国語中国文学を専攻する者にとっても有用な内容である。

2．必読参考文献

・漢字文献情報処理研究会編『電脳中国学』好文出版　1998年
・漢字文献情報処理研究会編『電脳中国学II』好文出版　2001年
所謂パソコンのマニュアル本は星の数ほど出版されているが、日本語に加えて中国語を扱うとなると、以前はまとまった文献がなく苦労したが、上記の２冊が出版されたことで状況は大きく改善された。Windowsパソコンで中国語を扱う人にとって必読の文献である。

・内田慶一「パソコンで中国語」
<http://www.alc.co.jp/china/study/pc/index.html>
・千田大介「電脳瓦崗寨」
<http://wagang.econ.hc.keio.ac.jp/>
パソコンの世界は文字通り日進月歩であり、書籍がそのスピードに追いつくことはなかなか難しい。最新の情報を得ようとするとWebを見る必要がある。上記はその代表的なものである。

3．文字コード

3.1　人間とっての文字とパソコンにとっての文字

パソコンで日本語と中国語を扱おうとする時、まず理解しておかなければならないのは文字コードである。パソコンは文字の意味がわかっているのでなく、文字に文字コードと呼ばれる番号を振って処理している。人間にとって同じ漢字であっても、振られている文字コードが異なっていればパソコンはそれを異なるものとして取り扱う。

（例）“一”の文字コード
・Shift-JIS（パソコンで使われる代表的な日本語文字コード）では88EA。
・GB（中華人民共和国の文字コード）ではD2BB。
・Big5（台湾の文字コード）ではA440。

日中間で文字コードが異なっているだけでなく、同じ中国語でも中国大陸

で使われる簡体字と台湾香港などで使われる繁体字では文字コードが異なっている。

3.2 文字化け

文字コードに関わる代表的トラブルとしては“文字化け”がある。例えば中国語で書かれたWebページを開けた時にわけのわからない文字の羅列になっていることがあるが、それはWebページに文字コードを指定する情報が書き込まれておらず、Webブラウザがとりあえず日本語の文字コードで書かれているものとして表示しているためである。Webブラウザの表示メニューの文字エンコード（文字セット）で正しい文字コードを指定すればよい。

メールのやりとりをする際にも文字コードに注意が必要で、中国大陸に送るメールはGB、香港台湾に送るメールはBig5を使わなければならない。同じ漢字だからといって日本語の文字コードのまま送れば、相手のところでは文字化けしてしまい読むことができない。また中国語圏から送られてきたメールが文字化けしているときは、文字コードを指定しなおしてやると正常に読めることがある。

3.3 Unicode

このように国や地域によって文字コードが異なるのは不便であるから、世界の様々な言語を一つの文字コードで表そうとしているのがUnicodeである。Unicodeを使えば従来は難しかった日本語と中国語の混在など多言語処理を容易に行なうことができ、更にUnicodeを使うことによって約2万字の漢字の入力が可能になる[1]。

Unicodeは多言語処理にとって非常に便利なものなのだが、問題がないわけではない。日本語と中国語に関して言えば、実質的に同じ文字が字形の違いによって異なる文字コードが振られているという問題があり、検索する際な

1　但し、普段あまり使わない文字は漢字変換の辞書に登録されていないため、WindowsではIMEパッド、Mac OS Xでは文字パレットから選んで入力することになる。

どに注意を要する。繰り返すが、文字コードが異なればパソコンはそれを異なる文字として扱うからである。

（例）

・為（日本語の字体）のUnicodeは70BA

・爲（繁体字）のUnicodeは7232

・为（簡体字）のUnicodeは4E3A

4．中国語を入力する

日本語と中国語の両方を扱うにはUnicodeに対応したOSやアプリケーションソフトウェアを使う必要がある。

4.1 Windows2000・Windows XP

パソコンのOSで圧倒的シェアを占めるのはWindowsであるが、一口にWindowsと言っても大きく２系統に分かれる。

・Windows95→Windows98→WindowsMe

・WindowsNT→Windows2000→WindowsXP

名称や見た目はよく似ていてもこの２系統は内部構造的には別物と言ってよい。日本語と中国語を混在するような多言語処理に関して言えば、Unicodeに本格的に対応したWindows2000またはWindowsXPを用いるべきである。Windows2000またはWindowsXPであれば、日本語版であっても中国語のフォント及び中国語の入力ソフトを内包しており、購入時にはOFFになっているがコントロールパネルの「地域と言語のオプション」の設定を変更すれば中国語の入力が可能になる。具体的な設定の方法や入力方法については前述した参考文献の中で図解付きで説明されている。Windows2000については『電脳中国学II』第２章または「電脳瓦崗寨」の中文電脳コーナーの中にあるWindows2000多言語機能ガイドで紹介されている。WindowsXPの設定方法については「パソコンで中国語」第17回で紹介されているが、ここで念のためその概略を書いておくことにする。

（1）スタートメニューからコントロールパネルを選ぶ。

（2）日付、時刻、地域と言語のオプションを選ぶ。
（3）他の言語を追加するを選ぶ。
（4）言語のタブを選ぶ。
（5）詳細ボタンをクリックする。
（6）追加ボタンをクリックして、中国語の入力ソフトを追加する。簡体字の場合、入力言語は中国語（中国)、入力システムはMicrosoft Pinyin IME。繁体字の場合、入力言語は中国語（台湾)、入力システムはChinese(traditional) - New Phonetic IME。
（7）コントロールパネルを閉じる。

4.2 Mac OS X

シェアという点ではWindowsに遥かに及ばないが、操作性の良さで知られるMac OSはWindowsよりもずっと早くから多言語対応していた。Mac OS 9では付属のLanguage Kitを追加インストールすることにより中国語を入力することができるようになる。なおUnicodeに対応したのは現行のMac OS Xからであり、本格的な多言語処理をするのであればMac OS Xの利用を強く勧める。日本語版のMac OS Xであっても中国語のフォント及び中国語の入力ソフトを内包しており、購入時にはOFFになっているがシステム環境設定の「言語環境」の設定を変更すれば中国語の入力が可能になる。具体的な設定方法や入力方法については私のWebページ
<http://www.center.osaka-wu.ac.jp/~kiyohara/index.html#MacOSX>に紹介してある。

4.3 日本語版Windows用中国語環境の過去の遺産

Windows95・Windows98・WindowsMeの日本語版は、英語と日本語を処理することしかできないOSであり、日中英の混在と言った多言語処理はできなかった。それでは困るということで文字コードは日本語の文字コードであるShift-JISのままで中国語のフォントを割り当てて中国語入力を実現するという擬似的な処理を行なうソフトウェアが発売された。代表的なものに以下のようなソフトウェアがある。

・Chinese Writer（高電社）
<http://www.kodensha.jp/jis/soft/>
・CWnn（後に楽々中国語と改称、オムロン）
<http://www.omronsoft.co.jp/SP/win/raku2c/index.html>

これらのソフトは変換の際のキー操作が日本語と共通で使いやすい、辞書引き機能や翻訳機能を持っているなど、Windows付属の中国語入力ソフトに比べて優れて点があるものの、その一方で過去の遺産とも言える問題点もある。Chinese WriterやCWnn（楽々中国語）は現在では多言語処理を実現しているが、互換性を保つために以前の擬似的な入力方法（CWコードやCWnnコード及びそれに対応したフォント）も残している。これらはあくまで擬似的なものであるから、紙に印刷したものは中国語になっていてもデータとしてはShift-JIS（日本語）であって、相手がChinese WriterなりCWnn（楽々中国語）なり自分と同じソフトウェアを持っていないと中国語の部分は文字化けすることになる。データを渡す相手がWindows95／Windows98／WindowsMe ＋ Chinese Writer／CWnnという環境を使っているのでない限り、あえてCWコードやCWnnコード及びそれらに対応したフォントを使う意味はなく、OSのUnicode対応が進んだ今、過去の遺産であるCWコードやCWnnコードはかえってトラブルの元になる可能性がある。Chinese WriterやCWnn（楽々中国語）も現在では中国語の文字コードを直接扱えるようになっているので、簡体字の場合はGBコード、繁体字の場合はBig5コードを使うべきである。

4.4 ワープロ・エディタ

多言語処理を実現するにはOSだけでなくアプリケーションソフトウェア側もUnicodeに対応していなければならない。言い換えればWindows2000やXP、Mac OS X対応とうたっているアプリケーションソフトウェアであっても必ずしもUnicodeに対応しているとは限らない。

アプリケーションソフトウェアと言えば、まずは文書を作成するためのワープロやエディタである。Unicodeに対応したワープロ・エディタはいろいろあるが、代表的なものを挙げておく。

4.4.1　Windows2000・XP用

・Microsoft Word2000以上

<http://www.microsoft.com/japan/>

・ＥmEditor

<http://www.emeditor.com/jp/>

・Windows 2000・XPに付属するワードパッド

4.4.2　Mac OS X用

・Microsoft Word2004 for Mac

<http://www.microsoft.com/japan/mac/>

・Jedit X

<http://www.artman21.net/product/JeditX/>

・Mac OS Xに付属するテキストエディット

4.5　メールソフト

ワープロやエディタと同様に日本で使われている全てのメールソフトが中国語の文字コードに対応しているわけではない。以下、中国語の文字コードに対応したメールソフトの代表的なものを挙げておく。

4.5.1　Windows2000・XP用

・Thunderbird

<http://www.mozilla-japan.org/>

・Becky! (ver. 2 以上)

<http://www.rimarts.co.jp/index-j.html>

・Shuriken Pro (ver. 3 以上)

<http://www.justsystem.co.jp/shuriken/>

・Outlook

・Outlook Express[2]

<http://www.microsoft.com/japan/>

4.5.2 Mac OS X用

・Thunderbird
<http://www.mozilla-japan.org/>

・Magellan Pro
<http://www.makie.com/ja/products/magellanpro/magellanpro.html>

・Entourage
<http://www.microsoft.com/japan/mac/>

・Mac OS X付属のMail

5．Webから情報を収集する

5.1 参考文献

中国学に役立つWebページやデータベース等については、『電脳中国学』第2章「中国学術関連ホームページガイド」及び『電脳中国学II』第3章「インターネット中国学への入り口」に紹介がある。

また漢字文献情報処理研究会編『漢字文献情報処理研究』（好文出版）では第1号（2000年）より最新号の第5号（2004年）に至るまで毎号「学術リソースレビュー」を掲載してWebページやデータベース、ソフトウェア等を紹介しており、『電脳中国学II』出版以降の状況がわかる。

最新の動向については会員制ではあるが漢字文献情報処理研究会の掲示板<http://jaet.gr.jp/>で知ることができる。

なお、私も自分の備忘録を兼ねて中国学に役立つWebページのリンク集<http://www.center.osaka-wu.ac.jp/~kiyohara/link/link.html>を公開している。

5.2 ここだけは知っておきたいWebサイト

5.2.1 参考文献・先行研究の検索

2　多くの人がWindowsと共にあらかじめインストールされているOutlook Expressを使っているが、Outlook Expressはユーザーが多いが故にコンピュータ・ウィルスの標的になりやすい。ウィルスチェックソフトをインストールしウィルス定義ファイルを定期的でアップデートする、Windows Updateをかけて Windowsのセキュリティホールをふさぐ等の対策はどのメールソフトを使う時にも必要であるが、Outlook Expressの場合はとりわけ注意が必要である。

レポートや卒業論文の作成のためには参考文献や先行研究の検索が欠かせない。以前は図書館に行ってカードを繰るか、直接書庫に入って探すしかなかったが、現在はネット上で多くの目録が公開されている。但し、これらの目録は現時点では膨大な蔵書を遡及入力している過程にあり、全ての蔵書をデータベース化しているわけではない。以下のWebサイトで検索して見つからなかったからといって、そのような書籍が存在しないということにはならないのである。

・国立国会図書館
<http://www.ndl.go.jp/jp/data/opac.html>
NDL-OPACは日本最大の図書館である国会図書館の蔵書検索である。またアジア言語OPACを使えば、国会図書館が所蔵する中国語の書籍も検索できる。

・Webcat英語版
<http://webcat.nii.ac.jp/webcat_eng.html>
日本の大学図書館の蔵書を横断的に検索できる。学術書は大学の図書館で探した方が効率が良い。英語版とあるがこれは検索画面の項目表記が英語になっているだけであって、日本語の書籍は勿論のこと中国語の書籍も検索できる。

・Webcat Plus
<http://webcatplus.nii.ac.jp/>
Webcatの機能拡張版。キーワードによる一致検索に加えて、連想検索では文章（自然文）を入力して本を検索することも可能である。Webcatと同様に大学図書館の所蔵状況を知ることができ、更に1986年以降に発行された書籍については本の目次や帯を見ることもできる。現在のところ日本語の書籍だけを対象としている。

・CiNii（論文情報ナビゲータ）
<http://ci.nii.ac.jp/cinii/servlet/CiNiiTop>
日本の大学や研究機関の発行する紀要に載った論文タイトルを検索できる。

・CHINA3（東洋学文献類目検索）
＜http://www.kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/db/CHINA3/＞
世界最大級と言われる中国学文献目録『東洋学文献類目』（京都大学人文科学研究所）を検索できる。

・中国国家图书馆（簡体字中国語）
<http://www.nlc.gov.cn/>
中国最大の図書館。以下のURLから蔵書検索画面に直接入ることができる。
<http://210.82.118.4:8080/F>
最初ログイン画面が出てくるが、IDやパスワード欄を空白にしたまま「匿名登录」ボタンをクリックすれば検索画面に入ることができる。

・CNKI（中国知网）（簡体字中国語）
<http://www.cnki.net/>
中国の学術論文データベース。論文の本文を見たりダウンロードしたりするのは有料だが、論文タイトルだけであれば無料で検索できる。論文タイトルの無料検索には以下のURLからに直接入ることができる。
<http://www.cnki.net/tilu/tilu01.htm>
日本では東方書店が代理店となっており、東方書店のWebサイトからもCNKIへのリンクをたどると、論文タイトルを無料検索できるページに行くことができる。
<http://www.toho-shoten.co.jp/>

5.2.2　中国語の用例の検索

辞書を引いたけれど探している単語が載ってない或いは載っているがどうもぴったりする語釈がない、古典文学を読んでいたらどうやら出典のありそうな言葉があり、原典をあたらないとその文の意味がわからない、日中辞典を引きつつ中国語作文をしてみたが本当にこういう言葉使いをするか自信がない等々、中国語中国文学を学ぶ過程で用例を探すことは欠かすことのできない作業である。以下、用例を探すのに役立つWebページの代表的なものをいくつか紹介する。これらは用例を探す手間を随分省いてくれるが、注意しなければならないのは、コンピュータはあくまで文字列を探しているだけであって、文献が読めているわけではないということだ。例えば２文字からなる単語を検索した場合、その2文字が並んでさえいれば検索されてくるが[3]、その２文字が１単語であるかどうかの判断、言い換えれば１文字の単語が２つ並んでいるだけではない、或いは３文字以上の単語の一部分ではないという判断は人間が用例の前後を読んで行なわなければならない。また、テキストをデータベースに入力する時の誤りはつきものであるし、入力に用いた底本や校勘の状況をきちんと説明していないところも多いので、論文に用いる際には書籍にあたりなおす必要がある。

【古典中国語】

・中央研究院漢籍電子文献（繁体字中国語）
<http://www.sinica.edu.tw/ftms-bin/ftmsw3>
正史、十三経注疏、小説戯曲、上古漢語語料庫、楽府詩集、文心雕龍、詞話集成などを検索できる。人文資料庫師生版は学生のために作られたもので、主な中国古典をざっと検索するのに便利である。

・寒泉（繁体字中国語）
<http://210.69.170.100/s25/index.htm>
十三経、先秦諸子、宋元学案、明儒学案、四庫全書総目、資治通鑑、全

3　「年画」（中国で旧正月の時に貼る縁起の良い絵）という言葉を検索すると、目指す「年画」の他に「中年画家」（中年の画家）にもヒットする。

唐詩、紅楼夢などを検索できる。

・元智工学院網路展書讀（繁体字中国語）
<http://cls.admin.yzu.edu.tw/home.htm>
三国演義、水滸伝、紅楼夢などを検索できる。

・北京大学全唐詩全文検索系統（簡体字中国語）
<http://162.105.161.41/tangpoem/>
「専業版」というリンクをクリックして入る。
全唐詩の他に唐以前の詩や楽府詩集、歴代詩話も検索できる。

・北京大学全宋詩全文検索系統（簡体字中国語）
<http://162.105.161.41/songpoem/>
「専業版」というリンクをクリックして入る。
全宋詩、全宋詞、宋史の検索ができる。

【現代中国語】

・中央研究院現代漢語平衡語料庫（繁体字中国語）
<http://www.sinica.edu.tw/ftms-bin/kiwi.sh>

・中国語教材研究会現代中国語コーパス（簡体字中国語）
中国語教材研究会のWebページ<http://we.fl.kansai-u.ac.jp/>から、工具→現代中国語コーパスとリンクをたどる。

5.2.3 中国語Webページの検索

日本語のWeb検索サイトについてはそれなりに知られているであろうから省略し、中国語のWeb検索サイトに的を絞って紹介する。

・Google日本
<http://www.google.co.jp/>

日本とあるものの、日本語だけでなく、日本語の文字コードに含まれている漢字であれば特に設定をしなくとも日本語のWebページと中国語のWebページを同時に検索できる。

なお、中国語のWebbページのみを検索するには以下のようにする。

【方法その１】
「言語ツール」をクリック。
「対象言語」で「中国語（簡体)」または「中国語（繁体)」を選ぶ。
【方法その２】
「検索オプション」をクリック。
「検索の対象にする言語」で「中国語（簡体)」または「中国語（繁体)」を選ぶ。

以下は中国語専門のWeb検索サイトである。

・百度（簡体字中国語）
<http://www.baidu.com/>
・中国搜索（簡体字中国語）
<http://www.zhongsou.com/>
・搜狗（簡体字中国語）
<http://www.sogou.com/>
・一搜（簡体字中国語）
<http://www.yisou.com/>

Web検索サイトにはそれぞれ癖があり、同じ単語を使って検索しても結果はかなり異なる。ある検索サイトで出てこない場合は、他の検索サイトも使って探してみるとよい。

なお、Webページも著作物であり、Webページをレポートや論文に使用する際には、書籍を参考にしたり引用するのと同様の扱いをする必要がある。つまり参考文献としてきちんとURLを記載し、引用箇所を明らかにしなければならない。また、書籍の場合は最低限出版前に編集者の目によってチェックされ、出版後は読者によって選別されるが、Webページはそのようなチェックが一切無しに個人が簡単に情報を発信できる。これは長所であると同時に、書籍に比べればその情報の信用度という点においてより慎重に取り扱わねばならないということでもある。

5.2.4 Web上の中国語辞書及び機械翻訳サービスほか

・Excite辞書

<http://www.excite.co.jp/dictionary/chinese_japanese/>

デイリーコンサイス中日辞典（三省堂）を引くことができる。

・Excite辞書

<http://www.excite.co.jp/dictionary/japanese_chinese/>

デイリーコンサイス日中辞典（三省堂）を引くことができる。

・词霸搜索（簡体字中国語）

<http://cb.kingsoft.com/>

中国語辞典の他に、英中・中英・日中・中日辞典を引くことができる。

・國語辭典（繁体字中国語）

<http://140.111.1.22/mandr/clc/dict/dict/>

台湾の代表的な中国語辞典を引くことができる。

・Excite翻訳

<http://www.excite.co.jp/world/chinese/>

ソフトウェアを使った中国語←→日本語の翻訳。誤訳や珍妙な訳文も少なくなく、決してそのまま使えるものではないが参考にはなるであろう。

・ICTCLAS 中国科学院计算技术研究所汉语词法分析系统（簡体字中国語）

<http://mtgroup.ict.ac.cn/~zhp/ICTCLAS.htm>

中国語初級から中級への大きな壁の一つは、読解面で言えば中国語は単語ごとの分かち書きをしないため単語の区切りがわからず、語形変化がないため語形から品詞を特定する手段がないことである。このWebサイトではソフトウェアで中国語の文を解析し、単語に分けた上で品詞を表示する。これも100％正しい分析結果が出るわけではないが参考にはなる。

6．まとめにかえて

コンピュータやインターネットの発達は参考文献や用例の検索に大いに寄与し、クリック１つで大量の用例や書籍を見つけることができるようになった[4]。たった１つの用例を見つけるためにまる１日費やすことが決して珍しいことではなかった私の学生時代から考えると隔世の感があり、まさに文明の利器である。

では、図書館の書架を渉猟し、辞書を片手に１ページ１ページ読みながら丹念に用例を探すことは意味のないことなのかと言えば、それはそうではない。その過程においてテキストの読解力や語感を自然と養成でき、また時には予期せぬ新たな発見にめぐりあうこともある。たとえパソコンを使って用例や文献をいくら大量に発見したとしても、それらを読み解き、論を組み立てる能力がなければ宝の持ち腐れである。それはちょうど足で歩くことと車に乗ることの関係に似ている。どちらも移動手段であることにはかわりはないが、自分の足で歩けば身体が鍛えられる上に、周りの景色がしっかり目に入り車では見逃してしまいかねないことにも気づくが、速度は車にかなわない。車に乗れば歩くよりはずっと速く、且つ一気に遠くまで行くことができるが、歩かずに車ばかり乗っていると身体が弱くなってしまう。

現代社会において車が欠かせないものであるように中国学においてもコンピュータの利用は欠かせないものになるであろう。我々はこの文明の利器を毛嫌いするでもなく絶対崇拝するのでもなく、その長所短所を踏まえた上で賢く利用すべきなのである。

４　テキスト読解の精度はさておき、読解の速度及び速度がもたらす量という点において、中国語を母語としない研究者は中国語を母語とする研究者に比べてハンディがあると思われる。研究者といっても様々で、中国語が母語でないことがハンディにならない方もいるであろうが、少なくとも私のレベルではそうである。コンピュータのもたらす大量の用例はそのハンディを軽減する可能性がある。